資料4

# 新総合体育館の想定されるパターン（機能・規模）について

## （１）新総合体育館に求められる機能

新総合体育館は、新総合体育館のあり方（案）や、現在の利用状況や区民・利用者の要望、スポーツイベントの実施可能性などを踏まえ、諸室、構成、規模について総合的に検討することが必要となります。

**総合体育館の現在の諸室・構成と新総合体育館のあり方（案）**

| 室名 | 室・競技場面積（㎡） | 用途 |
|---|---|---|
| 競技場 | 1,404 ㎡ | アリーナ面 39m×36m<br>バレー・バスケット 2 面、<br>バドミントン 8 面<br>卓球台 21 台<br>観客席（固定 392 席） |
| 卓球場 | 313 ㎡ | 卓球台 10 台 |
| 柔道場 | 235 ㎡ | 畳 105 畳<br>指導員室、用具庫 |
| 剣道場 | 327 ㎡ | 床板張り、指導員室、用具庫 |
| 弓道場 | 140 ㎡ | 洋弓 5 的<br>和弓 5 的、矢道含む |
| 第 1・2 トレーニング室 | 241 ㎡ | 筋力系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ機器 10 台<br>有酸素系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ機器 5 台<br>ﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝ系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ機器 2 台 |
| エア・ライフル場 | 95 ㎡ | 別棟（屋内）<br>エア・ライフル 6 射座 |
| 会議室 | 68 ㎡ | 定員 45 名 |
| 相撲場（屋外） | － | 土俵（屋根付）、足洗い場 |
| ローラースケート場（屋外） | 1,950 ㎡ | 50m×27m、1 周 100m リンク |

**新総合体育館のあり方（案）**

**ポイント1**
**練馬区のスポーツ振興の中核となる施設**

**ポイント2**
**「する」・「みる」・「ささえる」の多様なスポーツへの参加の機会を提供する施設**

**ポイント3**
**誰もが安心してスポーツを楽しむことができる施設**

**ポイント4**
**ハイレベルの競技にも対応し、区民が感動を共有できる施設**

**ポイント5**
**建設・維持管理の効率化と収入の拡大**

※ 弓道場は矢道を含む全体の大きさを、ローラースケート場はリンク部分のみの大きさを示している。
※ 弓道場は、洋弓・和弓共用利用である。

各諸室の稼働率について（資料３－１）や利用形態・利用ニーズからみた施設要件について（資料３－２）によれば、現在ある施設については、一部の施設を除き高い稼働率にあります。また、区民・利用者、スポーツ関連団体からのこれら施設の利用要望が高いことから、**現在ある施設は新総合体育館においても存続させることが望ましい**と考えられます。

また、稼働率が高くない「射撃場」、「ローラースケート場」、「相撲場」は、区内の他の体育館で代替できないこと、新総合体育館が中核的な役割を果たすことから、**機能を存続させることが必要である**と考えられます。

利用形態・利用ニーズからみた施設要件について（資料３－２）においても区民の新たなニーズとして現総合体育館にはない機能、あるいはより充実した機能に対する要望がうかがえます。

このうち、「みる機能」に関連する施設については、２３区における総合体育館の概要について（資料３－３）にもみられるように、新総合体育館の目指す方向性を定めたうえで、その必要度合いを検討する必要があるといえます。新たな機能の追加の考え方について、下表に整理しました。

**追加機能（案）の考え方**

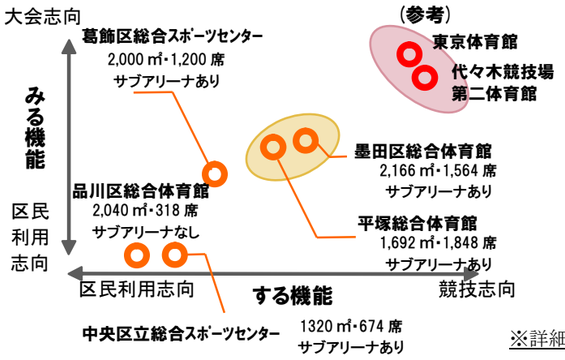
| 機能 | 追加機能（案） | 必要性・考え方 |
|---|---|---|
| 「する」 | 屋内温水プール | ・ 個人（一般利用者）アンケート調査では、やってみたい種目として「水泳（34.5%）」のニーズが最も高い。<br>・ 団体（スポーツ関連団体）アンケート調査でも、新たに整備してほしい施設として、「プール（40.9%）」のニーズが最も高い。<br>・ 各区の中央体育館の多くに「プール」が整備されており（一部は屋外整備）、また利用者の多い施設である。 |
| | トレーニング室 | ・ 個人アンケート調査において、「トレーニングマシン等を使用する運動」をやってみたいと回答する割合が高い（26.5%）。やったことがあるとの回答が 15.3%であることを踏まえると、期待が高いことが伺える。 |
| | フィットネス・スタジオ | ・ 個人アンケート調査では、やってみたい種目として「フィットネス（16.4%）」と比較的高いニーズを示している。<br>・ 23 区の施設においても、このうち 10 施設でスタジオが設置されている。 |
| | ランニングコース | ・ 近年、整備された体育館では、ランニングコースを設置する施設も多い。<br>・ 団体アンケート調査では、44 団体のうち 18 団体が新たに整備してほしい施設として、ランニングコースをあげている。 |
| 「みる」 | メインアリーナの充実 | ・ 競技場の稼働率は年間通して 84.1%（平成 21 年度）であり、平日夜間は 91.8%、休日日中は 96.1%と非常に高い利用水準にある。<br>・ 団体アンケート調査では、競技場に対して「施設・設備が古い（85.7%）」「規模が適当でない（42.9%）」という意見がある。<br>・ 大会開催には、規模の拡大が求められる。最近整備された墨田区総合体育館は、バレーボールのプロリーグ誘致による「みる」機能強化を意識して整備が行われている。 |
| | サブアリーナの整備 | ・ 大会開催時は、サブアリーナを練習場として利用するニーズがある。<br>・ 競技場の稼働率は高く、サブアリーナ設置により利用方法を工夫できる。 |
| | 観客席の充実 | ・ トップリーグの誘致を目指すのであれば、2,000 席規模の観客席が求められる。（可動式にすること等で必ずしも固定席 2,000 席を要しない）<br>・ 観戦するスポーツの種類（プロリーグ、国際大会等の対規模大会、区民大会等）により、観客席数を検討することが必要である。 |
| | バックスペースの充実 | ・ トップリーグやハイクラスなスポーツイベントの開催には、大会運営用のスペースや選手の控え室等のバックスペースが必要となる。 |
| 「ささえる」 | 情報発信と交流の場 | ・ 区のスポーツ振興のためにも、区民、サークル活動、スポーツ関係団体の交流や、情報共有を図る交流コーナー・発信コーナーの設置が求められる。川崎市とどろきアリーナでは、「スポーツ情報室」をもうけスポーツ情報の発信を行っている。 |
| その他の機能 | 飲食スペース | ・ 個人アンケートでは「レストラン・カフェなどの飲食提供施設」(57.9%)、「お弁当が食べられる飲食スペース」(56.1%）と利用者の飲食ニーズは高い。飲料、食品を販売する自動販売機の設置、食事をとることのできるスペースなどを確保することが求められる。 |
| | 託児室 | ・ 託児室を設置することで子供連れでもスポーツを楽しむことができる。 |
| | レンタルロッカー | ・ 中野区総合体育館、葛飾区総合スポーツセンターなどでは、利用者の要望に応えレンタルロッカーを設置している。 |

## （２）新総合体育館の規模の検討

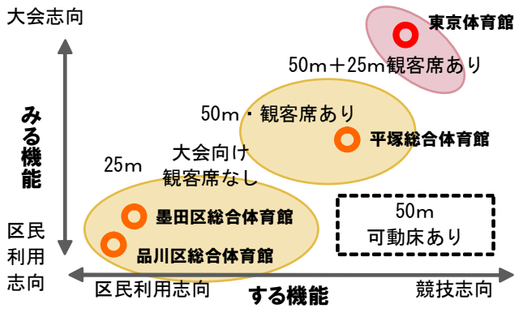
施設の機能構成、規模については、新総合体育館が目指す方向性と、それを実現するアリーナ機能、プール機能のあり方が大きく影響します。下表は主要な論点を整理したものです。

| アリーナ機能 | | プール機能 |
|---|---|---|
| 観客席数 | サブアリーナの有無 | |
| 500～1,000 席／1,500～2,000 席 | あり／なし | 50m+25m／50m／25m |

アリーナ機能に関する各施設のイメージ




プール機能に関する各施設のイメージ




※詳細は２３区における総合体育館の概要について（資料３－３）

### ■アリーナ機能の検討

・ 現総合体育館のメインアリーナの床面積は、1,404 ㎡（39m×36m）で、バレーボールコートが 2 面、バスケットボールコートが 2 面、バドミントンコートが 8 面確保できる。観客席は 392 席ある。

観客席数の検討（メリット・デメリット）

| | メリット | デメリット | 評価 |
|---|---|---|---|
| 1500 席～2000 席 | ・プロスポーツの興行や大規模大会等の開催の可能性がある。<br>・大会等の誘致が実現すれば、「みる」スポーツの振興につながり、これが「する」スポーツを促すきっかけとして期待できる。 | ・ 2,000 席の観客席を整備しても、東京体育館等の大規模施設と比べて大会誘致の競争力は低い。<br>・ 駅前に立地する墨田区総合体育館と比べてアクセス面で劣るため大会誘致の競争力は決して高いとは言えない。<br>・ 団体アンケートでは、現在の利用状況からすれば、「500～1,000 席」、「現在と同程度」の要望が高く、ニーズとの不整合が懸念される。<br>・ 「500 席～1000 席」に比べコスト負担が大きい（約 2･6 億円程度）。 | ○ |
| 500 席～1000 席 | ・「500～1,000 席」、「現在と同程度」との団体の利用ニーズにかなう。<br>・仮設スタンド設置により、やや大きな大会への対応も可能である。 | ・ プロスポーツの興行、大規模大会の誘致に対する競争力は低い。 | ○ |

※「1500～2000 席」の場合、サブアリーナの設置は必須と考えられる。

サブアリーナの有無の検討（メリット・デメリット）

| | メリット | デメリット | 評価 |
|---|---|---|---|
| サブアリーナ有 | ・ 大会開催時は練習場として利用でき、円滑な大会運営に寄与する。<br>・ 区民利用を想定した場合、メインアリーナとサブアリーナを別々に利用できることにより、利用の幅が広がる。 | ・ サブアリーナの整備により他の諸室を縮小せざるを得ない場合も生じる。<br>・ 大会開催でも、同日に複数試合が開催されない場合には、必ずしもサブアリーナは必要とされない。<br>・ プロリーグ戦を同日同会場で複数試合を開催するのは、経費削減という目的のためであり、施設使用料の低廉化により誘致は可能と想定される。 | ○ |
| サブアリーナ無 | ・ 空間配置に余裕が生まれ、メインアリーナ、あるいは、他の諸室を充実させることが可能である。<br>・ メインアリーナを区切って利用するなどの工夫により、必ずしもサブアリーナが必要とはならない。 | ・ 利用団体のサブアリーナ利用ニーズに対応できない。<br>・ 仮にメインアリーナで試合と練習を同時に行う場合には、配慮が必要となる。 | △ |

＜参考：アリーナ機能のコスト負担検討＞

| | 席数 | 延床面積 | 事業費 | 年間維持管理費（光熱水費） |
|---|---|---|---|---|
| 観客席 2,000 席 | 固定席 1500、可動席 500 | 約 4,600 ㎡ | 約 19.5 億円 | 約 4,900 万円 |
| 観客席 1,000 席 | 固定席 1000 | 約 4,200 ㎡ | 約 16.9 億円 | 約 4,200 万円 |

※ｱﾘｰﾅ単独を整備した場合の費用を設計事務所により積算。延床面積は、ｱﾘｰﾅ面積（約 1800 ㎡）＋座席面積（座席数で変動）。

### ■プール機能の検討

| | タイプ | メリット | デメリット | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| 50m＋25m | 大会志向（区民利用にも対応） | ・ 大会開催から水泳教室、区民利用などあらゆるニーズに対応できる。<br>・ 観客席を設置すれば、「みる」機能の強化につながる。 | ・ 大会開催日は区民利用ができない。<br>・ 整備には大きな面積を必要とするため、他の諸室への影響は避けられない。<br>・ 整備コスト及び特に維持管理費は大きな負担となる。 | × |
| 50m | 競技重視 | ・ 競技志向型となり、大会開催に対応できる。 | ・ 水深が深く一般区民の利用に向かない。教室の開催も容易ではない。<br>・ 区民利用には可動床の設置により床をあげる、25mに区切るなど特殊な設備を必要とするため、整備費及び、特に維持管理費は大きな負担となる。 | △ |
| 25m | 区民利用重視 | ・ 個人利用や水泳教室、また子どもから高齢者まで幅広い区民ニーズに対応できる。ウォーキングコース等も設置しやすい。<br>・ 50mプールの整備に比べ、整備費、維持管理費共に抑制できる。 | ・ 大規模な大会開催には向かない。 | ○ |
| プール無 | － | ・ 整備コストの負担がない<br>・ 面積の大きいプールを整備しないことにより、他機能の設計の自由度が増す。 | ・ プールの設置に対する区民のニーズは高い。<br>・ 23 区内の各区の主要体育館にはプールが設置されている（屋外のものもある）。 | × |

※大会開催を想定する 50mプールには観客席の設置、区民利用重視の 25mプールには観覧コーナーの設置を想定。

＜参考：プール機能のコスト負担検討＞

| | | 事業費 | 年間維持管理費（水道、電気、ガス、薬品の費用） |
|---|---|---|---|
| 50m+25m | 50m:8 コース、25m:6 コース | 約 21.2 億円 | 約 1.5 億円 |
| 50m | 8 コース | 約 16.2 億円 | 約 1.2 億円 |
| 25m | 8 コース | 約 11.0 億円 | 約 6,600 万円 |

※プール単独を整備した場合の費用を設計事務所により積算。
※天井高の設定は 50m＋25m は 15m 程度、50m は 8～10m程度、25mは 4～4.5m。
※50mプールの半分程度を可動床と設定（標準的な 50m プールと同水準）。可動壁は設置せず。
※年間維持管理費については、可動床に関する維持管理費（保守点検等も含む）について考慮されておらず、50m プールについてはさらに負担となる。

### ■新総合体育館の想定されるパターン

これらの検討を踏まえ、下表に想定されるパターンを示しました。

| ﾊﾟﾀｰﾝ | アリーナ機能 | | プール機能 | 利用の方向性 | 課題 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 観客席数 | サブアリーナ | | | |
| A | 1500～2000 席程度 | あり | 50m | ・ プロリーグ誘致や大規模大会に対応<br>・ 競技にも対応するプール<br>・ 「みる」スポーツの充実 | ・ 多大なコスト負担（特にプール。区民利用に配慮すれば可動床設置等の工夫がいる）<br>・ 観客席の利用率 |
| B | 1500～2000 席程度 | あり | 25m | ・ プロリーグ誘致や大規模大会に対応<br>・ 「みる」スポーツの充実 | ・ 観客席の利用率 |
| C | 500～1000 席程度 | あり | 25m | ・ 子どもから高齢者まで区民の誰もが利用しやすい施設 | ・ 「みる」スポーツの充実 |
| D | 500～1000 席程度 | なし | 25m | ・ 子どもから高齢者まで区民の誰もが利用しやすい施設 | ・ サブアリーナ利用ニーズへの対応<br>・ 「みる」スポーツの充実 |